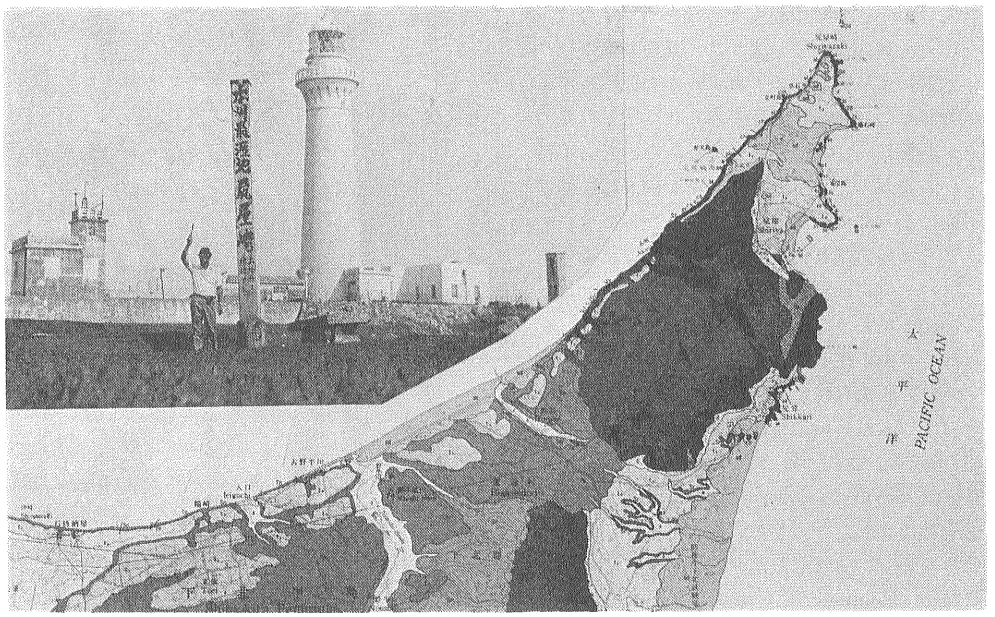

5万分の1 地質図幅の新刊

尻屋崎
SHIRIYAZAKI

5万分の1地質図幅
地域地質研究報告

著　者　対馬坤六・滝沢文教（地質部）

発　行　工業技術院 地質調査所

取扱先　地学文献センター　(0423) 62—5050

・尻屋崎は下北半島の北東端に突出する岬で　津軽海峡と太平洋を分けている．　本州の最北端は下北半島北西端の大間岬．これに対して　尻屋岬を"本州さいはて地"と人々は呼ぶ．東北本線の野辺地から陸奥湾沿いに恐山の雄大な威容を迎ぎ見ながら北上するルートは　最涯地に向うプレリュードとして申し分ない景観である．　尻屋岬の燈台は明治9年の峻工で津軽海峡と太平洋近海の闇を照らして100年の歳月を経ている．

・本図幅地域の地質は　基盤をなすジュラ系尻屋層群と　これを不整合に被覆する新第三系および第四系からなる．　前者は　海抜400m以下の高地を形成して域内の東部に分布し　後2者はおおむね100m以下の台地および低地をなし　前者をとり囲むように分布する．

・尻屋層群は　かつて"古生層"と考えられていたが　1959年石灰岩から中生代型サンゴ化石が発見されて　鳥の巣型石灰岩の一部であることが判明した．　本層群は粘板岩・石灰岩・チャート・緑色岩・砂岩および礫岩（大部分は同時侵食起源）からなる地向斜相の地層で　北部北上岩泉帯の延長部と考えられる．

・石灰岩は大きな岩体が3つあり　岩質はいずれも燐分が少なく製鉄用として優れており　日鉄鉱業KKによって盛んに採掘され　鉱山に隣接する港からおもに室蘭に向け船送されている．　目下現地に　セメント工場の建設が進みこの最涯地は　不況の世情の中で益々活気を帯びている．

・新第三系は本地域での分布は狭いが　下北半島に広く分布するものの一部で　中新統は本地域では陸成層（猿ガ森層）鮮新統は砂子又層と呼ばれる海成層で　その上半部からは大桑一万願寺動物群に含まれる貝化石を多産する．

・第四系は　鮮新統を不整合に覆う海成の田名部層と　高位・中位・低位の段丘構成層　ほかに風成層・沖積層などからなり　砂鉄層を胚胎する．　砂鉄採掘は縮少化しながらも現在でも稼行中である．

地質ニュース　第282号　2月号
定価 ¥420　〒50

昭和53年2月1日　発行
編集　工業技術院 地質調査所
発行人　林　久　雄
発行所　株式会社 実業公報社
東京都千代田区九段南4の2の12
Tel. (265) 0951（代表）
振替口座　東京　32466
総発売元　大蔵省印刷局 政府刊行物仕入部
東京都港区赤坂葵町2
Tel. (03) 582—4666
印刷所　共同印刷株式会社

© 1978 Geological Survey of Japan